

第3章

社会の理解

1 生活と福祉

【重要語句】	
<input type="checkbox"/> 核家族 <input type="checkbox"/> 拡大家族 <input type="checkbox"/> ライフサイクル <input type="checkbox"/> ライフステージ <input type="checkbox"/> コミュニティ <input type="checkbox"/> 過疎化	<input type="checkbox"/> 限界集落 <input type="checkbox"/> 合計特殊出生率 <input type="checkbox"/> ワークライフバランス <input type="checkbox"/> 地域包括ケアシステム <input type="checkbox"/> 地域共生社会

社会の基礎的集団として「家族」があります。ここでは、家族についての理解を深め、福祉の視点からみた社会にも触れていきます。

ア 家族

(1) 家族の概念

家族とは配偶関係、血縁関係をもとにして成立する集団です。

(2) 家族の分類

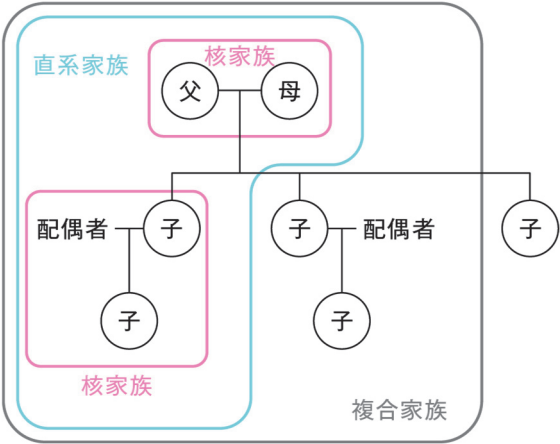
◆子供の視点から見た分類（形態）

定位家族	自分が生まれ育った家族
生殖家族	結婚して親元を離れ、新たに自らを中心とした家族

◆家族構成からの分類（形態）

核家族	家族の基本的な単位。 下記のいずれかで構成される家族形態を指す。 <ul style="list-style-type: none">・ 夫婦のみ・ 夫婦と未婚の子・ ひとり親と未婚の子
拡大家族	親子関係にある複数の核家族が同居する家族。 拡大家族は下記2つに分類できる。 <ul style="list-style-type: none">・ 直系家族…拡大家族のうち、親と1人の既婚の子供とその配偶者や子供と暮らす・ 複合家族…拡大家族のうち、親と複数の既婚の子供とその配偶者や子供と暮らす

◆拡大家族



(3) 制度としての家族

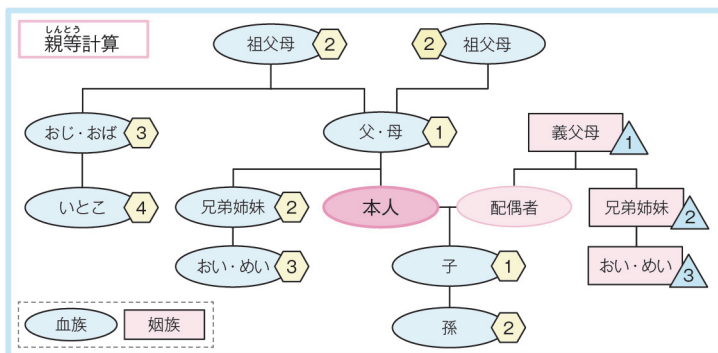
日本の民法では家族の扶養義務（※１）を定めています。

直系血族（※２）、兄弟姉妹はお互い扶養する義務があります。

三親等内の親族も扶養に義務が発生することがあります。

※１ 扶養義務…相互に背負っている生活保障の義務です。

※２ 直系血族…自分の祖父母、父母、子、孫などです。



民法での親族は、6親等内の血族、配偶者、3親等内の姻族（婚姻によって出来た親族）をいいます。

(4) 世帯

世帯は、国政調査や家計調査などの国の調査、住民登録などの行政上の手続で用いられます。

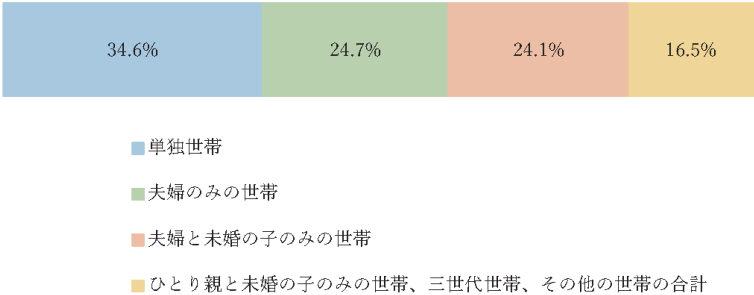
住居と家計をともししている人々の集団をいいます。そのため、経済的な扶養があっても別居している場合（単身赴任など）は当てはまりませんが、血縁関係がない同居人は含まれることもあります。

① 世帯構造

「世帯構造」は、次の分類によります。

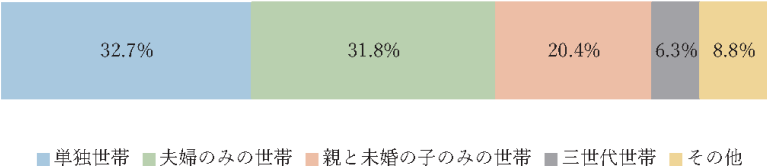
①単独世帯	世帯員が一人だけの世帯をいう。
②核家族世帯	・ 夫婦のみの世帯 ・ 夫婦と未婚の子のみの世帯 ・ ひとり親（父親又は母親）と未婚の子のみの世帯
③三世帯世帯	世帯主を中心とした直系三世帯以上の世帯をいう。 （祖父母世代、親世代、子供世代で構成される世帯）
④その他の世帯	上記①～③以外の世帯をいう。

◆世帯構成で多い順（全体を 100%とする）



このうち、65 歳以上の高齢者がいる世帯は 2024 年時点で約 50% となっています。

◆65 歳以上の高齢者がいる世帯の内訳（全体を 100%とする）



65 歳以上の高齢者がいる世帯の内訳で、高齢者のみの世帯が半数を超えます。（参考：厚生労働省「国民生活基礎調査」2024（令和 6 年））